

桂

かつら
KATSURA

Vol.131 平成30年3月5日/北海道薬科大学広報部

統合特別号
Vol.3

HUS NEWS LETTER

Hokkaido University of Science

北海道科学大学ニュースレター

Vol.35 / 2017 No.3 平成30年3月5日(第203号)

●工学部
機械工学科/情報工学科/電気電子工学科
建築学科/都市環境学科

●未来デザイン学部
メディアデザイン学科/人間社会学科

●保健医療学部
看護学科/理学療法学科/義肢装具学科
臨床工学科/診療放射線学科

●短期大学部
自動車工学科

統合特別号
Vol.3

2018年4月、北海道科学大学に
「薬学部薬学科」が誕生。



contents

特集

北海道薬科大学は 北海道科学大学と統合

HPUな人々 / 北薬大×地域×学生 / HUS×HPU統合掲示板

北海道科学大学は
新たなステージへ。



contents

特集

開学50周年イベント開催報告

HUSな人々 / 北科大×地域×人 / HUS×HPU統合掲示板





北海道科学大学
開学50周年

—特集— 開学50周年 イベント開催報告

北海道科学大学は2017年、開学50周年を迎えました。
昨年実施したさまざまな記念事業の開催内容をレポートします。
2018年は、新たな50年を踏み出す一歩の年。
北科大はこれからも手稲の、北海道の発展のために地域貢献を推進していきます。

開学50周年 記念シンポジウム・式典・祝賀会

2017年11月12日(日)、札幌パークホテルにおいて、北海道科学大学開学50周年を記念したシンポジウム(北海道科学大学主催、北海道新聞社共催)・式典・祝賀会を開催しました。

記念シンポジウムでは北海道出身の外交ジャーナリストで作家の手嶋龍一氏による基調講演「北の大地、新たな針路を探る」と苫米地理事長・学長らがパネリストとして登壇したパネルディスカッション「北海道を科学の力で切り拓く」をテーマに一般応募・関係者等約900人が参加されました。

パネルディスカッションでは、手嶋龍一氏、苫米地理事長のほか、(株)アミノアップ化学代表取締役会長 小砂憲一氏、北海道科学大学OBの小松建設(株)代表取締役 小松幸雄氏と(株)INDETAIL代表取締役 坪井大輔氏ら道内経営者も交えて、北海道の活性化について意見を交わし、メディアデザイン学科4年生の吉尾鷹哉さんもパネリストとして登壇し、大学生の目線から北海道の将来について意見が述べられました。

記念式典では、北海道副知事 窪田毅氏と北海道大学総長 名和豊春氏から祝辞をいただいた後、ブランド・アクションプロジェクトリーダーで工学部情報工学科の川上敬教授が北海道科学大学のブランドビジョンの実現に向けた今後の動向について話されました。

記念祝賀会には、大学OBや教職員などが多数列席し、開学半世紀の節目を祝いました。



手嶋龍一氏による基調講演



▲パネルディスカッションでは活発な意見が交わされました



▲記念式典では、川上教授が大学のブランドビジョンを説明



▲盛大に行われた記念祝賀会

開学50周年記念事業 ご寄付のお礼

このたびは、北海道科学大学開学50周年記念事業の実施のために、多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。なお、2017年12月末日をもちまして、寄付金の受付は終了いたしました。本年度末にホームページで報告をさせていただきます。
北海道科学大学は、今後も教育の質の向上と充実を図り、「北海道No.1の実学系総合大学」を目指して参りますので、引き続き、皆様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

50th anniversary HUSキャンパスイルミネーション2017



2017年12月1日(金)~28日(木)、本学メインストリート及び中央棟において、開学50周年を記念したHUSキャンパスイルミネーション2017を開催しました。このイベントは本学と、札幌市と手稲町の合併50周年を迎える手稲区との共催で行われたものです。

ステンドグラスアーティストのMie氏がデザインした高さ6mのツリーと高さ2.4mのオブジェ14基、さらに近隣の小学生と保護者が手作りしたオリジナルキャンドルホルダー約150個がキャンパスを彩りました。北海道科学大学高等学校合唱部によるクリスマスソングの披露や、北海道札幌国際情報高等学校吹奏楽部によるダンプレ(Dancing & Playing)もあり、会場は大いに盛り上がりました。HUSキャンパスイルミネーションは、次年度以降も開催を予定しています。



アーティスト×
地元小学生の交流!

ステンドグラスアーティストMie氏によるワークショップで、地域の子どもたちがキャンドルホルダーを手作り!どれも素敵な仕上がりがです。



毎週金曜日のお楽しみ
「HUS FRIDAY LOUNGE!」

●12/8 CINEMA TREK presents 「ショートフィルム上映会」
●12/15 HUS クリスマス パフォーマンス
●12/22 芸森スタジオ presents 「クリスマス コンサート」



点灯式のツリーは電気自動車で点灯。

点灯式の際に、6mのメインツリーの電飾の電源となっていたのが、日産電気自動車e-NV200です。本学では、災害時の電源供給に電気自動車を活用する「スマートキャンパス化計画」を進めており、点灯式にテスト運用しました。なお、e-NV200は校用・教材車両として日産自動車株式会社から無償貸与されたものです。

大学の知を地域へ発信する
研究シーズ展示イベント

HUS LABO PRESENTATION

開学50年の研究・人を社会へ



「開学50年の研究・人を社会へ」をコンセプトに、大学が持つさまざまな研究成果(研究シーズ)を地域の方にご紹介する「HUS LABO」。第1回の札幌を皮切りに、函館、旭川と今年度の全日程を無事に終了いたしました。札幌では看護学科、函館では理学療法学科、旭川では機械工学科の教員陣がそれぞれミニ講座を開き、いずれの会場も多くの方にご参加いただいたほか、体験イベントなどは、親子連れの方にも楽しんでいただきました。

「HUS LABO」は、2018年度も道内各地で開催予定です。お近くにお越しの際は、是非ご来場ください!



研究ブランディング HUS LABO NORTH LIFE INNOVATION

—北国の豊かな生活環境創出プロジェクト—

文部科学省 2017年度「私立大学研究ブランディング事業」に北海道内「初」かつ「唯一」北海道科学大学が選定されました。



研究の詳細、今後の取り組みなどは本学ホームページにてご覧いただけます。

HUS 人々

北海道科学大学を
さまざまな視点からご紹介する
「HUS 人々」。
教員、在学生、OBOGの声から、
大学の魅力をお伝えします。

北科大の 研究者たち



氏名 松田 寿 先生

学部学科名 工学部 機械工学科

学位 工学博士

研究分野 流体工学

趣味 バドミントン(上級指導員)、
スキー(1級、競技スキーも嗜みました)、読書



手稲の好きなどころ

手稲山が近くに見えること。
(E401教室からの眺めが一番好きです)

Q1 先生の研究内容について教えてください。

機械工学の中の4本柱の一つ、流体工学が専門です。飛行機が生まれたのは流体工学の進歩があったからです。他にも水道が皆さんの家庭に無事運ばれるのもポンプなどの流体機械のなせる業。こうした流れをコントロールする方法の一つに、物体表面に薄い電極を貼り付け高圧電気を流すことで気流を制御するプラズマアクチュエータというデバイス技術があり、このデバイスの実用化を実現したいと思っています。

Q2 その分野に進んだきっかけを教えてください。

飛行機が大好きで大学では機械工学を専攻し、流体工学の研究室で風洞を使った空力騒音に関する卒業研究を行いました。卒業後、航空機部品メーカーに勤めましたが、自分がやりたいのは流体の研究なんだと気づき、悩んだ末、大学院に戻って専門の勉強を5年間積みました。そこで学んだことを流体機械の開発に生かしたいと、T社の機械研究所に入所。T社では、高速エレベータの空力騒音問題や高速鉄道の空調トラブル、ガスタービン冷却翼の開発や、蒸気タービン設計ツールの開発、風力発電の動的制御技術開発など、本当にさまざまな対象の研究に携わることができました。



▲フランスでスキーを嗜む若かりし頃の松田先生。

◀バドミントンでは上級指導員の資格も。

地元で働くOB・OG

JIMOTO!



北海道科学大学は、その多彩な学びが特色のひとつです。
医療職として貢献する先輩、イベント業界で奮闘する先輩。
さまざまな分野で地元貢献するOBの様子をお届けします。



好きだったものづくりを活かせる医療職、それが義肢装具士でした。

2010年度 北海道工業大学(現:北海道科学大学)工学部
医療福祉工学科 義肢装具学専攻(現:保健医療学部 義肢装具学科) 卒業
竹島 泰成 さん(石狩南高校出身)
有限会社 野坂義肢製作所 勤務

昔からのものづくりが好きでした。医療の道でそれを活かせることに興味を持ったのが、義肢装具士を目指したきっかけです。北海道工業大学(現:北海道科学大学)に進学したのは、高校を卒業する年に全国で初めて北海道にこの職種の4年制学科ができるのを知ったことで志望しました。大学での学びを通し、医学だけではなく、力学など工学的にも生体を見れるようになりました。義肢装具士として、現在は一般整形外科を中心に患者様と接しています。医師の指示の下、患者様のニーズに合わせた補装具の構造やパーツの選択をし、オーダーメイドで形にできることが仕事のやりがい。今後は、どんな年齢、整形疾患の方が来ても対応できるように更に技術・知識を磨いて地域社会に貢献していきたいと考えています。

普段の生活では味わえない達成感があるのが、この仕事の魅力です。

2016年度 北海道科学大学 未来デザイン学部 メディアデザイン学科 卒業
佐々木 大輔 さん(札幌手稲高校出身)
株式会社ヤマチコーポレーション イベント事業部 勤務

デザインやプログラミングを学びたく、メディアデザイン学科への進学を決めました。大学では、ひとつの問題に対し、コミュニケーションを取りつつ課題の解決に取り組む方法を学びました。デザインが得意な人、プログラミングが得意な人など、分野に秀でた人がいるためとても刺激になりました。また、それぞれの分野のエキスパートの先生の下で、幅広い分野を深く学ぶことができました。在学中にゼミの先生の勧めで、「札幌国際短編映画祭」などのイベントに参加させていただく機会があり、そこでイベントの仕事に興味を持ったのが、現在の仕事につながっています。私たちの仕事は、物を売るわけではなく、イベントという形の無いものを作ること。「地域を盛り上げたい」「沢山の人の笑顔にしたい」というお客様の思いを形にすることで、北海道を盛り上げていきたいと思っています。



在学時の佐々木さん。写真右から2番目



北科大生にQ×A

病院実習を通し、さらに仕事熱が高まったと言う景山さん。目指せ! 国家試験合格!!

保健医療学部 理学療法学科 4年

景山 研斗 さん

(旭川凌雲高校出身 現:旭川永嶺高校)



Q1.小さい頃の夢は?

プロサッカー選手。

Q2.大学生活のなかで、嬉しかった思い出。

学校生活や学業について評価され、学校の奨学金をもらったこと。

Q3.プライベートでチャレンジしたいこと。

自転車で旅や富士山に登ってみたい!

Q4.大学の良さを一言でいうと?

バラエティ豊か!! 学科のバラエティが豊かなので、ヒトも多様です!

Q5.地域や社会に貢献するのなら、何をします?

高齢者の転倒予防や学校の部活動などの障がい予防。

Q6.今の充実度は何%?と、その理由。

85%。病院実習を終えて、さらに理学療法士になりたいと思い、モチベーションを高もって勉強できているから。あとは国家試験に合格できれば100%です。

232もの
研究が進行中!

Hokkaido University of Science x Community x People

北科大×地域×人

北海道科学大学には、工学部5学科、保健医療学部5学科、未来デザイン学部2学科の3学部12学科と短期大学部があり、各学科の教員たちは今日も「暮らしをより良くするための研究」に向かっています。大学で生まれるさまざまな研究が、どのように地域や社会、人とつながっているのかをご紹介します。

地域 地域や暮らしに関わりの深い話題 **急上昇** トレンド感のある話題や学科の注目トピックス **ひと** 頑張る教員や学生たちの様子を紹介



北科大×地域×人
地域 未来デザイン学部 メディアデザイン学科
パセオでプロジェクションマッピング作品公開!

メディアデザイン学科の学生たちがプロジェクションマッピング制作チーム「Team Creative HUS Lab.」を結成し、昨年の11月25日(土)・26日(日)2日間にわたり札幌駅地下街「パセオ」地下1階のテルミナス広場にて作品を公開しました。学生参加型のクリスマスイベントとして開催された「paseo creators camp vol.4」の一環として行われ、札幌市内の大学がエントリーする中で、4校の作品が上映されました。多くの観客が詰めかける中、同チームのメンバーは自らステージ上でプレゼンテーションを行い、クリスマスをテーマとした2Dアニメーションの作品(約4分)を披露しました。

同チームは、昨年の9月末にメディアデザイン学科の学生有志29名により結成され、学科のカリキュラムで学んだ得意分野を活かし、企画・制作・デザイン・技術・音楽と5つのセクションに分かれ、同学科の小谷彰宏教授と倉本浩平講師の指導を受けながらプロジェクトを進めました。

総合演出を行ったリーダーの作田くるみさん(同学科3年)は、今回のプロジェクトを通して、大人数で一つのモノを作り上げる難しさや、学年を越えて活動する楽しさなど、多くのことを学びました。自分自身の成長を実感することもでき、人生の糧となる経験になりましたと、感想を語ってくれました。

北科大×地域×人
ひと 工学部 都市環境学科
未来の北海道を支える、頼もしい土木女子です!



都市環境学科3年 桂愛永さん(小樽桜陽高校出身)が、2017年11月17日(金)に開催された「土木学会北海道支部若手技術者交流サロン」に参加しました。今年の若手技術者交流サロンでは、土木系学科を擁する道内各大学から学生が集まり、「未来の北海道のために 土木の力でやりたいこと」をテーマに意見を交わし、その成果をポスターにまとめ、土木学会北海道支部創立80周年記念祝賀会の中で発表しました。大学院生が中心となって集まっていた中で、桂さんは最年少でしたが、堂々と議論に参加していました。



▲プレゼンテーションをした桂さん

北科大×地域×人
急上昇 保健医療学部 義肢装具学科
捻挫を防ぐ“筋肉”に注目! 再捻挫を防止する装具を、メーカーと共同開発!

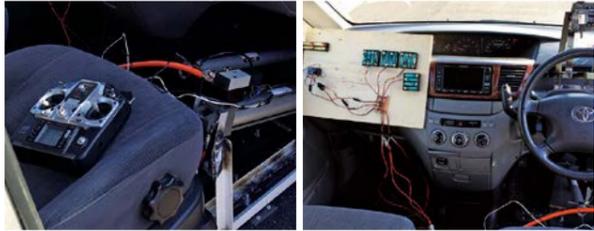


足首を捻るなどして起こる捻挫は、一度受傷すると足関節が不安定になり、再度捻挫しやすいたことが知られています。それを防ぐために、これまでは足関節を固定するサポーターなどが使用されてきました。本学義肢装具学科では、捻挫を防ぐ機能を持つ筋肉を突き止め、その筋肉を意識せず動かせるよう神経刺激を与える簡易的な装具を用いることで、再捻挫を防ぐことができると考え、メーカーと協力して開発を行っています。

北科大×地域×人
地域 工学部 機械工学科
市民の安全を守るための、寒冷地向け車両防止柵を研究開発中。

札幌では、大通公園で行われる「よさこいソーラン祭り」や「さっぽろ雪まつり」など多くのイベントが毎年開催されていますが、近年、テロや薬物依存者などによって、車両を用いた一般市民に対する無差別攻撃などの被害が増加しています。このような状況を全て阻止することは非情に困難ではあるものの、海外要人やイベントなどの警備における安全対策が、これまで以上に求められています。

そこで本学では企業と連携し、寒冷地に特化した「伸縮式車両阻止柵」の研究開発を行っています。このプロジェクトは一般財団法人札幌産業振興財団の補助事業であり、(株)白石ゴム製作所、(株)金星、(地独)北海道立総合研究機構などの企業・研究所が参画しています。機械工学科は、車両試験を行う際の無人運転を担当しており、本学科、短期大学部 自動車工学科の教員のほか、自動車部の部員もプロジェクトに参加しています。



北科大×地域×人
ひと 工学部 電気電子工学科
「科学実験工作教室」で、子どもたちと一緒に科学の楽しさを共有!

昨年12月9日(土)・10日(日)の2日間、国立日高青少年自然の家で「サイエンスフェスティバル」が開催されました。本イベントは主に小・中学生を対象にした企画で、2日目に、電気電子工学科と苫小牧高専、釧路高専の共同開催で科学実験工作教室を開催しました。会場では、本学科の小島ゼミの3年生が「フリフリ発電器」の工作ブースを出展。9名の学生が子どもたちに説明・指導しながら一緒にフリフリ発電器を作りました。子どもたちの列は途切れることなく、大変喜んでくれ、ゼミ生たちも充実した時間を過ごしていました。



北科大×地域×人
地域 未来デザイン学部 人間社会学科
人を乗せ、町を越え、地元の歴史を刻み続ける、道南いさりび鉄道の記憶を残そう。

人間社会学科 社会学専攻3年生は、昨年12月7日(木)～9日(土)の3日間、函館市の五稜郭駅から上磯郡木古内町の木古内駅までを結ぶ「道南いさりび鉄道」の利用者の方々にインタビュー調査を行いました。名付けて「鉄道の記憶」調査。2016年北海道新幹線の開通によってこの区間は第3セクターとなりましたが、昔も今もこの鉄道は、地域の歴史を刻んだ歴史遺産です。そうした地域の歴史、住民の記憶をインタビューを通して発掘し、地域社会の歴史的・文化的発展に寄与することを目的とした調査です。学生たちは、乗り合わせた乗客や列車を待つ人、駅周辺の商店のご主人、通学で利用する生徒の多い高校など、さまざまな人にインタビューを行い貴重なお話の数々を収集。見知らぬ人に話しかけるたくましさも身に着けました。



▲道南いさりび鉄道本社で



▲函館水産高校の方や、駅で電車を待っている方にもインタビューをしました

北科大×地域×人 保健医療学部 臨床工学科

ひと **本学ならではの施設で、医学・工学分野の知識・技術を広く持った臨床工学技士に。**

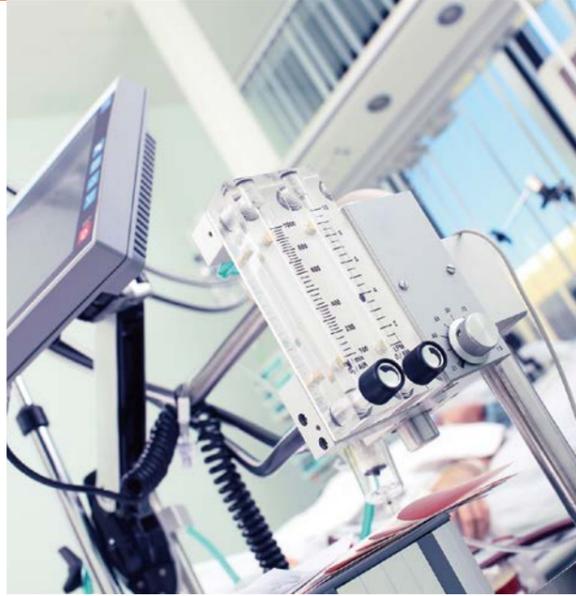
臨床工学科は医学と工学の広範な知識と技術を修得します。そのために、講義で学んだ電気・電子工学の現象を、実験を通して学びを深める「工学系実験室」があります。オシロスコープや直流・交流電源装置を用いてさまざまな電気・電子回路を構成して行う実験や、はんだごてを使用して実際に心臓機能の診断に必要な心電計や脈波計などの計測器を作製します。また、医学系の実習や本格的な微生物の実験ができるクリーンベンチを備えた「医学系実験室」では、解剖生理学・生化学・感染制御学を深く学んでいきます。



▲工学系実験室



▲医学系実験室



北科大×地域×人 急上昇

工学部 情報工学科

情報工学科2年生を中心とした夢プロジェクト「Q-PIT」が大活躍!

学生のアイデアをカタチにするため大学が資金援助を行う「夢プロジェクト」。2017年度に採択されたプロジェクトの一つである「Q-PIT」は、情報工学科の学生11名を含む13名がITを活用した本学のプロモーションコンテンツ制作を行うものです。今年度の成果の一つとして、現実空間に仮想物体を映し出すAR(拡張現実)技術を使ったスタンプラリーアプリを制作。大学祭や10月のオープンキャンパスで実施し、結果は大好評でした。また、10月末に函館で開催された電気・情報関係学会北海道支部連合大会では学部2年生ながら学会発表を行うなど精力的に活動を行っており、今後も活躍が期待されます。



▲オープンキャンパスの様子



▲アプリ画面(スタンプラリー)

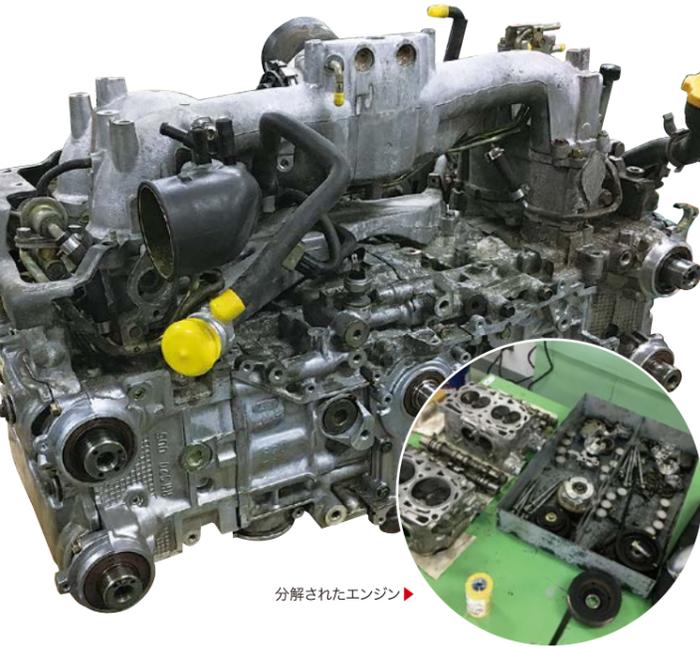
北科大×地域×人 急上昇

工学部 建築学科

建築学科主催講演会「新国立競技場の構造デザイン～制振構造の新たな挑戦～」。

建築学科の学生の実務に関する教育の一環として、毎年数回、実務者による講演会を開催しています。今年度は、第1回講演会として10月6日(金)に大成建設(株)設計本部の副本部長、細澤治氏による、建築学科主催の講演会「新国立競技場の構造デザイン～制振構造の新たな挑戦～」を開催しました。

講演会では、2020年開催の東京オリンピックに向けて建設中の新国立競技場の特徴を解説いただくとともに、日本らしさを追求した木質架構を実現する方法や耐震性能を確保するための新たな制震構造の構法及びその構法の安全確認のための解析方法について詳しく説明をしていただき、改めて、建築は総合的な技術を持って建設されていることをご講義いただきました。



北科大×地域×人 急上昇

短期大学部 自動車工学科

貴重かつ歴史のあるエンジン「EJ20」を、学生の声で導入。

学生からの希望により自動車工学科に新たな実習用エンジンとしてスバルの「EJ20」が加わりました。世界的に見ても量産しているのはスバルとポルシェのみという貴重な水平対向エンジンで、オープンキャンパスで訪れる高校生のファンも多いエンジンです。また、基本構造が1989年から変わっておらず、新型エンジンが登場しても、レース出場の関係もあり、未だに一部の車種で搭載されています。このエンジンは、今年の後期から1年生の授業において使用されています。今後のオープンキャンパスでもどんどん使用していく予定です。



◀購入したばかりのエンジンを、学生たちが実習で使用するにあたり分解組立と清掃を行っている様子

北科大×地域×人 保健医療学部 看護学科

ひと **看護学科1期生が「看護師国家試験」を受験!**

2月18日(日)、第107回看護師国家試験が施行され、本学看護学科1期生が受験しました。本学の学生は「札幌コンベンションセンター」と「TKP札幌駅カンファレンスセンター」の2か所に分かれての受験となりました。当日は雪の降り続く中での試験となりましたが、1期生たちはこれまで4年間の努力の成果を遺憾なく発揮できるよう、全力で試験に臨むことができました。

合格発表は3月26日(月)。4月にはいよいよ北海道科学大学から看護師が誕生します!



北科大×地域×人 急上昇

保健医療学部 理学療法学科

視覚的フィードバックを用いた呼吸介助指導方法の検討。



呼吸介助は呼吸器疾患患者の呼吸に合わせて胸郭を圧迫し、呼吸困難を軽減する手技です。呼吸リハビリテーションの現場では日常的に行われており、理学療法士が学生や他職種に指導する機会も多くあります。しかし、圧迫する強さや力加減についての指導は臨床経験から得られた感覚的な「コツ」の伝授になってしまいます。そこで現在、理学療法学科の鴨志田麻実子助教を中心に胸郭を圧迫する圧力、圧迫された人の換気量の変化を視覚的に確認しながら実技練習を行う指導方法の効果について検討しています。今後は学生への指導にとどまらず、現役の看護師の方に指導する際にも効果的な方法となるか調査する予定です。



北科大×地域×人 ひと

保健医療学部 診療放射線学科

本学科4年生が、優秀研究賞を受賞。



昨年11月18日(土)・19日(日)に、札幌医科大学において開催された「日本放射線技術学会北海道支部学術大会第73回秋季大会」で、佐々木ゼミの小林穂乃香さん、谷川原ゼミの山内美加子さんが優秀研究賞を受賞しました。小林さんは「DNA損傷シミュレーションによる臓器線量評価法の検討」という研究発表を、山内さんは、「前向き推論によるマンモグラフィカテゴリー判定支援ツールの開発」という研究発表を行いました。

全国合格率21.7%の狭き門を見事突破!

TOPICS

本学科の3年生2名、4年生9名が、平成29年度第1種放射線取扱主任者試験に合格しました。原子力規制委員会所管の国家資格であり、放射線治療に用いる装置や放射性物質を有する医療機関において重要な資格です。



HUS × HPU 統合掲示板

いよいよ今春、北海道科学大学 × 北海道薬科大学が統合！ 北海道NO.1の実学系総合大学を目指して、新たな歴史が始まります。

● 大学統合を迎えるにあたり

学生課から

北海道薬科大学が前田キャンパスへ移転した年は、学生同士が各々の大学のやり方を継承してしまったために、クラブ活動や合同開催行事では意見がぶつかり合い大変でした。丸2年が経過し、2017年度は次年度の大学統合に向け、両大学の学生の関わりが多くなった年でした。系列校であっても、あまり接点がなかった両大学の学生が同じ学生組織、クラブに所属することになるので、学生向けの統合説明会などを開催、統合する組織については学生同士での話し合いが必要になりました。北海道薬科大学の学生は、北海道科学大学の規則などを聞き、今までの違いに戸惑いがあったようですが、複数回の説明会及び学生同士の話し合いを通して徐々に規則や活動内容を理解し、2018年度からの活動に向け、準備を進めることができました。統合に向けての準備を進める中で、両大学の組織の活動の違いを理解し、互いに尊重する姿が見られるようになりました。

広報課から

2大学共通の「広報課」となってから、1年半ほど活動してきました。オープンキャンパスや大学祭で見かけた、学生同士が大学の垣根を越えて協力し合い、イベントを作り上げていく姿は頼もしく、お互いにとって良い刺激になっていると思いました。北海道薬科大学の移転から3年経ちますが、学生さんの活動の様子を見てみると、すでにひとつの大学のような雰囲気を感じられ、統合への準備は万端なのではないでしょうか。これまで広報から発信してきた「2018年4月、北海道科学大学と北海道薬科大学は統合します」という言葉がいよいよ現実になります。学生さんに負けぬよう、職員もより一層の一体感を持って業務に励みたいと思います。

統合で新たな学びが広がるね



北海道薬科大学が小樽市桂岡から、手稲区の前田キャンパスに移転してきたのが2015年。大学の統合と言う大きな事業を目前に、この数年は学内でも、実質的な業務の統合に迫られた期間でした。例えば、それぞれの大学で運営していたクラブ活動をどうするのか、お互いが開催していた大学祭をどうするのか…？山積する課題をそれぞれの大学の教職員、学生たちが、ひとつずつクリアしていき、いよいよ2018年の春を迎えます。間近に迫った大学の統合という華やかなステージへのこれまでの道のりをご覧ください。



両大学の学生たちが参画したプロジェクト

大学周辺町内ゴミ拾い、体育祭、大学祭、サイクルセーフティラリー、セーフティラリー、クラブリーダーズ交流会、体育局大コンパ など



▲ 両大学が参加したイベントは以前よりもパワーアップ！大いに盛り上がりました

過去の活動の様子



▲ 以前はそれぞれの大学で町内のゴミ拾いを行っていました



北海道工業大学 ▲ 体育祭・雪かき隊 北海道薬科大学 ▲ オープンキャンパス・大学祭



クラブ活動

ダンス部が合同練習、美術部と一緒に活動していました。



みんなで考えてみよう
統合にむけて何が出来るだろう



新タイムカプセル封入セレモニー

昨年の大学祭では、両大学の想い出の品を封入。25年後の開封が楽しみです！



両大学の学生が力を合わせてセレモニーを成功させました



2017/10/1
北海道科学大学
開学50周年
新タイムカプセル
封入セレモニー



転学式のお知らせ 北海道科学大学 薬学部・薬学研究科転学式

日時：平成30年4月3日(火)10時00分～
式場：ロイトン札幌(札幌市中央区北1条西11丁目)

9:00 在学生集合
9:30 開場
10:00 開式

※入場できるのは薬学部・薬学研究科の在学生のみとなっておりますので、ご了承ください。

統合特別号 編集後記

この1年間、北科大の広報誌「ニュースレター」と北薬大の広報誌「桂かつら」の統合特別号を3回にわたり発行してきました。「ニュースレター」と「桂かつら」は、どちらも創刊から30年以上経つ歴史ある広報誌です。2冊とも掲載されている内容が全く異なっていたこともあり、「統合特別号」として発行するまでにはさまざまな苦労がありました。それぞれの個性を活かしつつ1つの冊子として完成させるのは難しくもやりがいのある作業でした。特にこの見開きページ「HUS×HPU統合掲示板」では、2大学の統合について色々な観点からお知らせするとともに、読者に楽しんでもらえるような紙面づくりを考えて制作してきたので、手にとってくださった方々に楽しんでいただけたのであれば幸いです。次号の「ニュースレター」からは、「桂かつら」のスピリットも受け継ぎ、より充実した内容の広報誌となるよう努めていきます。今後ご愛読よろしくお願いたします。



北海道薬科大学10期(昭和62年卒) 卒業30周年同窓会

卒業30年経った今…

第10期生 松川 典靖

去る、9月17日(日)に行われた第10期生卒業30周年記念パーティーに参加した報告と、近況を報告させていただきます。「再会」の期待と喜びを胸に参加させていただいたパーティーは、いつしか自然にたくさんの人の輪となり、開始の乾杯を待つことなく始まりました。当時は懐かしむ話と共に、日頃のうづぶん?を全て吐き出そうとはかりに話は尽きることなく、終始笑顔があふれていました。各自の近況報告では、決して「順風満帆」で楽しいことばかりではなく、健康、仕事、家庭のこと…さまざまな悲しみや苦しきも色々。山あり谷ありを乗り越えて、この場で再会できたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今、私は調剤薬局の開業者として、一人でも多くの患者様の支えとなり、感謝されるようにと、親切第一の気持ちを忘れずに努力を重ねる毎日です。いつの間にか50歳を過ぎ、日ごとに体力の衰えを感じるようになりましたが、せめて気持ちは若く!!母校の名に恥じないよう頑張りますので、今後もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



▲同窓会参加者集合写真

冬道安全運転講習会を開催

11月27日(月)に、冬道安全運転講習会(SDA主催)を開催しました。SDA会長の後藤佑太さん(4年生)が司会を務め、多くの学生が参加しました。

講習会では、北海道自動車学校の佐藤博幸先生による講演が行われ、ブラックアイスバーンの危険性や冬道運転のコツ、タイヤと冬道運転との関係などについて、わかりやすくお話ししていただきました。参加した学生は佐藤先生のお話に真剣に耳を傾けていました。



平成29年度 読書感想文の表彰式を実施

12月8日(金)に、図書館イベントで募集した読書感想文の表彰式が行われ、多数の応募の中から審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞4名、佳作10名が受賞しました。本学からは、3名が優秀賞及び佳作を受賞しました。

- 〈優秀賞〉
1年 山根 優香さん
作品名「葉よ、おごるなかれ」
〈佳作〉
5年 新関 愛結さん
5年 島田 昂輝さん



▲前列左端が山根優香さん

北海道科学大学の本郷学術情報センター長から、各賞の受賞者に対して賞状及び記念品が手渡されました。

大学院博士課程学位論文発表会を開催

1月12日(金)に、大学院薬学研究科博士課程、臨床薬学専攻の学位論文発表会を開催し、口頭発表と質疑応答を行いました。発表者と演題は以下の通りです。

- 加藤 由佳
「アラキドン酸代謝に及ぼすテルミサルタンの影響」
(指導教員：戸田 貴大 教授)
- 兼平 幸宗
「肺投与型ドラッグデリバリーシステムの前がん治療における有用性に関する研究」
(指導教員：丁野 純男 教授)



東北支部秋田地区同窓会において、本学教員が講演

10月28日(土)に、秋田県秋田市ホテルメトロポリタン秋田において、北海道薬科大学東北支部秋田地区同窓会(講演会及び懇親会)が開催され、同窓生30名が参加しました。

講演会では、最初に校庭正行東北支部長のご挨拶があり、続いて基礎薬学系医薬化学分野和田浩二教授が「北海道薬科大学から北海道科学大学 薬学部へ」と題して、これまでの本学の歴史や現在の薬学部の教育内容、学生の一年間の様子、前田・桂岡・サテライトキャンパスの様子、統合へ向けての動きなど、最近の本学の動向について講演しました。その後の懇親会では、同窓生の皆さんは在学時代の思い出を語りながら交流を深め、同窓会は盛会のうちに終了いたしました。



▲同窓会参加者集合写真

「第31回北海道技術・ビジネス交流会」に出展

11月9日(木)、10日(金)の2日間、アクセスサポロで開催された「第31回北海道技術・ビジネス交流会(BJNES EXPO)」に、応用薬学系薬理学分野の丁野純男教授が出展しました。

「北海道技術・ビジネス交流会(BJNES EXPO)」は、1987年から開催されている北海道最大規模のビジネスイベントで、第31回の今年は「躍動、革新、北海道」をテーマに大学・企業など345団体が出展して盛大に行なわれ、2日間で20,850名の来場者が訪れました。本学からは、丁野教授が「大麦若葉搾汁エキス末の体重増加・脂肪蓄積抑制効果とその加工食品開発の事業化に向けた提言」のテーマで出展しました。会場では、来年度の本学と北海道科学大学との統合に向けた全学的広報をイメージしてブースが設営され、北海道科学大学・短期大学部からの出展者と共に大勢の来訪を受けました。



第2回薬剤師スキルアップ講座を開催

10月15日(日)に、本学前田キャンパスにおいて、薬剤師スキルアップ講座「フィジカルアセスメントと症例検討」医薬連携のためのパスポート「バイタルサイン測定」を開講し、薬局薬剤師・病院薬剤師あわせて14名が参加しました。

第1部では、国際医療福祉大学 医学部医学教育統括センター・シミュレーションセンターの石川和信教授が、多職種連携医療で薬剤師が果たす役割について、さまざまな症例を提示し、Q&A方式やビデオで医学生の模擬患者への対応も示しながら、患者から得なければならない情報を把握するためのポイントを解説しました。その後行なわれた参加者同士の血圧測定では、上腕動脈の位置、脈拍の触知、確認法、マンシエットの装着法や加圧減圧のポイントについてデモンストレーションを受けながら、医学教育で実施



OG・OB就職講演会を開催

12月12日(火)に、5年生を対象としたOG・OB就職講演会を開催しました。第1部では「病院薬剤師の仕事について」感染制御専門薬剤師の立場から」と題し、中村記念南病院 薬剤部 係長 山田和範先生(本学23期生)から、第2部では「大病院 病院薬剤師の仕事について」と題し、北海道大学病院 薬剤部 主任 熊井正貴先生(本学24期生)からそれぞれ講演がありました。お一方ともにご自身の経験から大学生生活におけるアドバイスをしていただき、また、日常業務の一端を紹介いただきました。講演終了後に質疑応答が行われ、学生にとって貴重な時間となりました。



病院・薬局のための グループディスカッション講座を開催

12月18日(月)に、5年生を対象に外部講師を招き、グループディスカッション・グループ面接対策講座を開催しました。講座の参加者は、面接試験のポイントや自己PR、志望動機のとめ方について学び、本番形式の模擬グループ面接を体験しました。講師から自分の強みや弱みについてフィードバックを受けることにより、自らの課題を見つけ、本番に向けての対策を学び、大いに役立ったようです。



している正確な血圧の測定や脈拍数の測定方法を学びました。第2部では、病態を表現したシミュレータを用いて異常な心音・呼吸音を聴診し、他の医療従事者が修得している患者のバイタルサインのアセスメントに加え、薬学的視点に基づくバイタルサインについて学びました。更に、得られたバイタルサインに基づくフィジカルアセスメント結果についてグループ単位で討論を行いました。医師の視点と薬剤師の視点からのフィードバックを行ったことで、「薬剤師に気付いて欲しい患者の微妙な変化が明確となり、多職種連携に役立つ講座となりました。

薬剤師アップデート講座を開催

9月2日(土)に今年度第3回目のアップデート講座を創路プリンスホテルにおいて、11月10日(金)に第4回目を本学サテライトキャンパスにおいて、開催しました。

第3回目は「そうだったのか、在宅訪問!」患者さんにやさしい医療を目指した取り組みの紹介」のテーマで、らいぶ薬局在宅専任薬剤師の中村薫先生が講演しました。中村先生は病院薬剤師を経験してから保険薬局に転身した経験があり、前半で、感染対策への病院薬剤師としての取り組みについて紹介しました。後半は、高齢者施設での薬剤師の役割として、在宅業務の実績のない薬局で、中村先生がどのようにして実績を作っていたのかについて講演しました。最後に、在宅業務への取り組みとして、注射麻薬の対応、残薬や服薬管理への取り組み、小児難病での簡易懸濁や看取りへの係わりの3つの事例を紹介しました。参加者は、具体的な取り組み内容を大変興味深く聞き、講演後に薬剤師教育や在宅業務で苦労している点などに関する質問をしていました。

第4回目は「腎機能を気にして調剤しますか?」腎機能チェックの必要性」のテーマで、J・R札幌病院 薬剤科長の長谷川功先生が講演しました。講演の前半で、我が国における慢性腎不全(CKD)の現状とその治療に用いられる各種薬剤の機序や使用上の注意を解説しました。後半では、薬剤師が腎機能を確認しながら日常業務を行う重要性と、具体的な腎機能の確認方法と実践例を紹介しました。また、この確認業務が、患者にとってより安全な薬物投与設計につながることを力説され、参加者は大変興味深く聞き入っていました。



北菓大×地域×学生

北海道薬科大学は、「地域社会の要請に応え、質の高い薬剤師を養成、輩出することによって北海道の医療の発展に貢献する」ことを建学の精神としております。本学と地域の関わりや日々勉学に励む学生の様子を紹介いたします。

薬物乱用防止キャンペーン

本学学生は、学内外のイベントで「薬物乱用防止」に取り組んでいます。9月24日(日)に、北海道薬剤師会が主催する薬物乱用防止キャンペーンに本学学生が参加しました。以下は早坂麻依さんの体験記です。また、9月30日(土)、10月1日(日)の稲峰祭では、本学の桂青会薬物乱用防止局が「薬物乱用防止キャンペーン」を開催しました。

●「第1回社会貢献事業 薬物乱用防止キャンペーン in 北海道」に参加して
3年 早坂麻依

9月24日(日)に、サッポロフアクトリーにおいて開催された「第1回社会貢献事業 薬物乱用防止キャンペーン in 北海道」(一般社団法人 北海道薬剤師会主催)に、32名の学生がボランティアとして参加しました。

本イベントは違法薬物の恐ろしさや医薬品の正しい使用方法、薬剤師業務についての啓発を目的に開催されており、私たちは、北海道薬剤師会の会員と北海道医療大学の学生とともに、医薬品クイズやこども調剤体験などを行いました。

当日はたくさんの方に足を運んでいただき、薬物や薬剤師について知ってもらえた良い機会となりました。

●稲峰祭において薬物乱用防止キャンペーンを開催



▲入浴剤づくりの様子



▲キャンペーンスタッフ

9月30日(土)、10月1日(日)の稲峰祭において、本学の桂青会薬物乱用防止局主催の「薬物乱用防止キャンペーン」を開催しました。本キャンペーンは、北海道薬科大学同窓会・札幌薬剤師会の協力のもと、薬物乱用防止の啓発活動と医薬品・健康について



▲ステージで医薬品クイズの様子

▲こども調剤体験の様子

の意識向上を目的に行われました。今回のキャンペーンでは、子ども調剤体験、生薬を用いた入浴剤づくり、アルコールパッチテスト、実験クイズ等のブースを設置しました。また、薬物乱用に関する意識調査のために、無記名アンケートを実施しました。今年度は2000人を超える方に足を運んでいただき、大盛況のうちに終了しました。

日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加

ワークショップに、本学6年生の大聖貴之さんが参加しました。以下は大聖さんのワークショップ印象記です。

6年 大聖貴之

私は、8月11日(金)から12日(土)にかけて、東京都府中市のクロスウェーブ府中で開催された日本薬学会第7回全国学生ワークショップに参加しました。

今回のワークショップでは、「医療者として社会への貢献」私たちの未来を語るというテーマの下、グループディスカッションを行いました。私は、大学の学生と「社会に求められる薬剤師のニーズ」について話し合うことで、将来の薬剤師像を具体的にイメージすることができました。また、他大学の学生と意見交換や薬学実務実習での出来事を話すことで、同じく薬剤師を目指す仲間が日本各地にいることを実感できました。意識の高い同じ境遇の仲間がいるとわかるだけで、頑張る意欲にもつながりました。私は、今回のワークショップで学んだことや感じたことを活かせるよう、これからも努力し続けたいと思います。



▲3列目右から3人目が大聖貴之さん

札幌市立啓明中学校の生徒さんが本学を訪問

10月18日(水)に、札幌市立啓明中学校の3年生26名が上級学校訪問で本学を訪れ、薬学生としての1日を体験しました。

生徒さんたちははじめに薬学や薬剤師の仕事についてなどの講義を受講後、AEDを使った心肺蘇生の実習に参加しました。基礎薬学系生命科学分野の村岡早苗准教授が、救助を開始する際の注意事項、心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使用についてレクチャーした後、生徒さんにも実際にシミュレーターを使って救急法を身につけてもらいました。



昼食後、白衣に着替えて、より「薬学生」を意識した実習を行いました。人型シミュレーターの「フイジコさん」を使った実習では、脈拍、心電図などのバイタルサインを測定し、健康な人と病気の人の違いを勉強しました。また、化学実験を身近な物で感じてもらうため、漢方入浴剤作りやルームフレグランス作りを行いました。生徒さんは皆、真剣な表情で取り組んでいました。その後、研究棟(B棟)の見学ツアーで、模擬薬局、無菌注射剤調製室、実験研究室を見てまわり、様々な機材や物質を手取るなどの体験をしました。今回の訪問で、参加した生徒さんは薬学や薬剤師に興味を持ち、芽生えたようです。今後の進路を考えるうえでも、今回のさまざまな経験が役立つでしょう。

本学大学院生が第24回 日本未病システム学会学術総会で優秀演題賞を受賞

11月4日(土)、5日(日)に、ワークシア横浜で開催された第24回日本未病システム学会学術総会において、本学大学院2年生の山田晃己さん(指導教員:薬理学分野 渡辺一弘教授)が「ヒト小腸におけるアルミノプロフェンの輸送とグルクロン酸抱合」の演題で、優秀演題賞を受賞しました。本研究は、非ステロイド性抗炎症薬であるアルミノプロフェンの小腸におけるグルクロン酸抱合について明らかとすることが高く評価されました。



父母懇談会を開催

9月16日(土)に地方会場(道内5地区:旭川、網走、帯広、釧路、函館、道外2地区:青森、東京)において、並びに9月23日(土)に本学会場(札幌)において、父母懇談会を開催しました。今年度は地方会場62組、本学会場213組のご父母に参加いただき、日頃のご子女の学修、生活、就職、進路などについての情報交換を行いました。次年度は、北海道薬科大学へ統合となりますが、今までと変わらずにご父母の皆様と密に連携を取りながら、学生の支援を行っていきます。

中学生と保護者を対象とした 体験薬剤師教室を開催

10月1日(日)に、中学生と保護者対象の「親子のための体験薬剤師」を開催しました。本体験教室は日本薬学会北海道支部との共同主催、また秋山記念生命科学振興財団の共催、及び札幌薬剤師会、小樽薬剤師会の協賛をいただき、実施しました。当日は中学生20名と保護者及び同伴者24名の合計44名が参加しました。はじめに、挨拶、ガイダンスの後、「薬学 薬剤師紹介」があり、続いで体験実習、模擬調剤体験では、実際に薬局で使用している機器を使用して、調剤業務の体験などを行いました。その後、北海道大学名誉教授の寺沢実先生によるミニ講義「シラカバ木と樹液の話」を受講しました。

次に、体験実習「ミクロの観察!顕微鏡で『植物の細胞』や『自分の細胞』をみてみよう!」を行いました。実習では顕微鏡を操作し、自分で作った標本を使ってタマネギの細胞分裂などを観察したのち、標本のスケッチも行いました。その後は、漢方入浴剤「アロマスプレー」づくりに挑戦しました。最後に模擬薬局や無菌注射剤調製室など、本学の実習施設を見学しました。



▲細胞についての説明



▲アロマスプレーづくりの様子

札幌手稲高等学校・北海道薬科大学連携「薬剤師インターンシップ」を実施

10月26日(木)に、薬剤師という職業に関心をもつ手稲高校1年生22名を対象として、札幌手稲高等学校・北海道薬科大学連携「薬剤師インターンシップ」を実施しました。午前中は共用講義棟(A棟)において、本学教員(山下浩准教授、病院薬剤師(NTT東日本札幌病院八巻美和氏)、在学生(5年生 増井卓也さん、大学院博士課程2年 稲村明洋さん)が、大学教員、病院薬剤師、現役学生という3つの



▲増井卓也さんの講義の様子

異なった視点から、薬剤師の仕事について講義を行いました。午後は3グループに分かれ、手稲深仁会病院、NTT東日本札幌病院、KKR札幌医療センターにおいて薬剤師業務を見学しました。高校生の皆さんは病院薬剤師の仕事や病院内を見学し、薬剤師への興味を更に深めたようです。

本学教員が「後志病院薬剤師会・小樽薬剤師会合同学術講演会」で講演

10月24日(火)に、小樽市立病院において後志病院薬剤師会、北海道病院薬剤師会、小樽薬剤師会、株式会社ツムの共催で「後志病院薬剤師会・小樽薬剤師会合同学術講演会」が開催され、基礎薬学系医薬化学分野の山下浩准教授が講演を行いました。小樽、後志地区の薬剤師を対象とした学術講演会で、参加者は80名を超えました。

山下浩准教授は、臨床現場で取り扱われる漢方薬の理解を深めるため、「漢方薬 生薬入門ー理解の入り口?ー」の演題で講演を行い、漢方処方方に配剤される生薬から処方解析を行い、各生薬についての理解のポイントなどを説明しました。漢方薬をより安全に、より効果的に患者の治療に用いるため研究を重ねる、臨床現場で活躍する薬剤師の方々に、今回の講演は実りあるものとなりました。

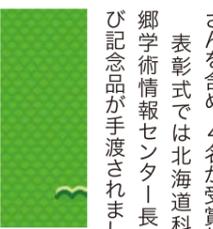
火災総合訓練を実施

10月6日(金)に、北海道薬科大学・北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部の3大学合同で火災総合(通報・避難誘導・初期消火)訓練を実施しました。

H-Tプラザ1階機械室付近から出火したことを想定し、訓練がスタートしました。教職員による自衛消防隊が編成されたほか、北海道科学大学の学生団体「HUS防災プロシエクト」も参加し、訓練を行いました。出火場所であるH-Tプラザ横では、学生・職員・警備員が消火器を使って消火訓練を行い、別の建物では屋外への避難誘導などが行われ、避難指定場所にも多くの学生と教職員が避難しました。避難完了後、体育館東側では消火器の使い方説明と放水消火訓練・消火器消火訓練が行われ、学生・職員・警備員が体験しました。全ての訓練終了後、手稲消防署の杉林さんより総評及び防災への心構えについてお話しいただきました。参加した学生・教職員・警備員は、いつ起こるかかわからない災害について危機意識を持ち、防火防災について考える良い機会になりました。



▲写真中央が熊木梨乃さん



▲デザインしたしおり

平成29年度 図書館イベント「しおりデザインしおりデザイン募集表彰式」を実施

10月4日(水)に、平成29年度図書館イベント「しおりデザイン募集表彰式」が行われました。このイベントは、今年度から新たな取り組みとして始められたもので、図書館カウンターで配布するしおりのデザインを募集し、北海道薬科大学及び北海道科学大学の26名の学生から応募がありました。

応募作品の中から厳正な審査の結果、本学4年生の熊木梨乃さんを含め、4名が受賞しました。

表彰式では北海道科学大学の本郷学術情報センター長から、賞状及び記念品が手渡されました。

北海道薬科大学をさまざまな視点から紹介する「HPUな人々」。在学生の体験談や教員、手稲近郊で活躍する卒業生などを紹介します。

学生部長表彰の授与式を実施

10月6日(金)及び11月6日(月)に、学生部長表彰の授与式を行いました。

今回の受賞者は、8月11日(金)、12日(土)に開催された日本薬学会第7回全国学生ワークショップに本学代表として参加し、未来に向かって今何をすべきかについて活発に討論し、ワークショップの成功に大きく貢献した6年生の大聖貴之さん(PS5)に関連記事を掲載と、9月10日(日)に本学で開催された第11回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会において、「アトピー性皮膚炎患児の母親におけるステロイド外用薬に対する不安と使用行動の関連性の研究」のタイトルでポスター発表を行い、優秀賞を受賞した6年生の鈴木七海さん(指導教員:社会薬学分野 岸本桂子准教授)、9月23日(土)、24日(日)に大阪薬科大学で開催された日本社会薬学会第36年会において、「在宅における薬剤師関与の希望増加についての調査研究」の演題で学部学生優秀発表賞を受賞した6年生の森大樹さん(指導教員:社会薬学分野 岸本桂子准教授)です。3名の受賞者は、それぞれの業績が本学の名誉を著しく高めたと認められました。

授与式では、丹保学生部長から表彰状及び記念品が手渡されました。



▲写真中央が森大樹さん

▲写真中央が大聖貴之さんと鈴木七海さん

第50回「稲峰祭」を開催

9月30日(土)、10月1日(日)の2日間、第50回「稲峰祭」とうほうさい」を開催しました。平成27年度に本学と北海道薬科大学短期大学部が前田キャンパスに移転したことから、北海道薬科大学との3大学合同で大学祭を開催しています。今年は、屋外54団体、屋内17団体が出店・展示を行い、キャンパスは活気にあふれていました。

両日とも、多くのお客さんが来場し、「稲峰祭キング(腕相撲大会)」「THEのど自慢★バトル」、「BIG☆BINGO」などのイベントや各模擬店での飲食などを楽しんでいました。毎年恒例の薬物乱用防止キャンペーンにはおよそ2000名の来場者が訪れ、大変賑わいました。来場者の皆さんは薬物の恐ろしさを理解するとともに、脳年齢検査や子供調剤などを楽しみながら体験していました。また、北海道薬科大学開学50周年記念事業の一環として、「新タイムカプセル封入セレモニー&餅まき」と「50周年記念巨大迷路」が大学祭内で行われ、大いに盛り上がりました。

今年の大学祭1日目は断続的に小雨が降る天候でしたが、2日目は晴天に恵まれて、2日間の日程を無事終了しました。



手稲で働くOB・OG

2012年度北海道薬科大学薬学部薬学科卒業
門野 琴音さん(旭川南高校出身)
パルナ薬局 手稲店 勤務

Q1. この道を目指したきっかけ。

兄の病気をきっかけに薬剤師という仕事に興味を持ちました。今は元気に過ごしていますが、子供の頃には服薬治療を受け、副作用に苦しんだこともあり。そのため薬が治療という面だけでなく、副作用を発現するということを詳しく勉強したいと思い、薬剤師という道を選びました。



北薬大の教員紹介

氏名 鈴木夏子 先生
学部学科名 薬学部薬学科薬理学分野
学位 博士(食品栄養科学)
研究分野 食品機能学



手稲の好きなところ
山がきれい。

Q2. 仕事のやりがい。
患者様と医師との間に立てることで、診察時には上手く伝えられなかったことなどを投薬時に聞き取り、医師に伝達し、指示を仰ぐことで患者様の疑問や不安などを少しでも取り除くことができたとき、仕事の存在意義を感じます。

Q3. 仕事を通じて、どのように地域や社会に貢献していきたいですか？

かかりつけ薬剤師・薬局として服薬支援を行うことは当然ですが、当薬局では現在、健康サポート薬局の認定を受け、地域の方の病氣予防・健康サポートに力を入れています。病院に行つた後だけではなく、病院に行く前のサポートにも力を入れ、地域に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

先生の研究内容について

がん化学療法による治療を想定した経口抗がん薬と食品成分の併用によるリスクとベネフィットを腸管免疫物質α-defensinの発現変動、さらに胆汁酸分泌量から腸管免疫全体を視野に入れ総合的に評価しています。

その分野に進んだきっかけを教えてください

以前は農学分野の食品科学を研究領域としておりましたが、食品の機能と医療の接点を研究したいと思うようになり、薬学の分野に飛び込みました。

先生の研究は、地域や社会にどう還元されますか？

本研究成果を基に、簡便にリスクやベネフィットが評価できる系を確立することで、がん治療の安全性の確保に寄与することが可能と考えています。また、本研究で用いている食品成分には食の宝庫と言われる北海道産の農産物を使用しています。がん治療におけるこれら農産物の有用性が明らかになることで、農産物の高付加価値化や、商品の安全性の確保、さらには病気の予防改善に對し有用となる新たな食品の発掘に寄与できると考えています。

稲峰祭を終えて

桂青会大学祭企画局局长 3年 宮島宏季

今年度行われた稲峰祭には特別な肩書きが2つありました。1つは「稲峰祭50周年」、そしてもう1つは「北海道薬科大学最後の大学祭」です。この大きな節目となる稲峰祭に局長として関わることになり、私は大変なプレッシャーを感じました。

今年度の稲峰祭のテーマは「Innovation」でした。来年度からの統合に向けて、北海道薬科大学、北海道科学大学が互いに手を取り、新しいことをしよう、という意味を込めて付けられました。桂岡から移転して一年目の大学祭は、講義日程、長期休暇日程などが全く違うことに困惑し、「協力」という形を取ることでできませんでした。しかし、三年目ともなるとお互いの学部の違いにも対応でき、今年度は両大学の境界線を感じさせない一体感がありました。

今回の稲峰祭の準備期間で最も時間をかけ、力を入れたのは50周年記念イベントの企画でした。当初、プロジェクトマネジメントや巨大花火などの案もありましたが、最終的に体育館サブアリーナを贅沢に使った巨大迷路に決定しました。また、50周年記念イベント「タイムカプセル封入式」の企画もあり、特別感あふれる稲峰祭になりました。

稲峰祭当日、1日目は雨が降ったりやんだり、天候にあまり恵まれませんでした。2日目はなんと回復し、多くの来場者で賑わいました。巨大迷路は若年層から絶大な支持を得て、常に行列ができていくほどの大盛況でした。初の試みでしたが、大成功でした。今年度で解散となる桂青会は50周年記念イベント「タイムカプセル封入式」でウィンドブレーカーなど桂青会の名前が入ったものを収め、後世に存在を伝えることにしました。

1日目に終わった、芸能人イベントでは、M-1王者となった「ころさーもん」さんや「流星」さん、禅さん、そして稲峰祭当日が誕生日の「石出奈々子」さんの、以上4組のお笑い芸人をお招きし、新進気鋭の芸人の皆さんは来場者を爆笑の渦に巻き込みました。

毎年恒例の桂青会薬物乱用防止局主催の「薬物乱用防止キャンペーン」は、今年度も二日間に渡って開催されました。キャンペーン内容は老若男女問わずに楽しめるイベントで、来場者は二日間

合わせて2000人を超える結果となり、昨年度以上の盛り上がりでした。

第50回稲峰祭は大成に終わりました。大きな問題もなく、局員全員で達成感を味わいました。準備期間こそ大変な大学祭企画局ですが、終わってみると良い思い出となり、来年度も関わっていきたくと思っています。支えてくれた局員、学生課の方々、稲峰祭を盛り上げてくれた学生の皆さん、並びに同窓会の皆様、そして来場して下さった地域の皆さん、大学祭に関わって下さった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成29年度本学奨学生(1年生)の証書授与式を挙

平成29年度の本学奨学生(1年生)が決定し、学長室において11月15日(水)に証書授与式を行いました。1年生に對する本学奨学制度では、入学後の前期に優秀な成績を収め、人物優秀者と認められた1年生10名に6万円ずつ奨学金の給付を行っています。



父母後援会奨学生の証書授与式を実施

本学父母後援会奨学金規程に基づき平成29年度の奨学生20名が決定し、12月11日(月)に、奨学生証書授与式が行われました。父母後援会奨学金制度は、学業、人物共に優れ、経済的理由により修学困難な学生20名以内に奨学金10万円を給付するもので、平成21年度に設立されました。授与式では、本郷文教父母後援会会長から奨学生証書が授与された後、お祝いと激励の言葉がありました。



特集

北海道薬科大学は 北海道科学大学と統合

北海道薬科大学薬学部薬学科及び大学院薬学研究科臨床薬学専攻(博士課程)は、4月に北海道科学大学薬学部薬学科及び大学院薬学研究科臨床薬学専攻(博士課程)となります。3月8日(木)には、北海道薬科大学として最後の学位記授与式が挙行され、6年生が巣立ちました。

1974(昭和49)年の開学から44年の歴史と実績を北海道科学大学薬学部へ引き継ぎ、在学生(平成29年度1~5年生)は北海道科学大学薬学部へ転学し、新2~6年生となります。4月には北海道科学大学薬学部として、初めての入学生を迎えます。

北薬大情報「桂かつら」は131号を持って、発行を終了します。

北海道薬科大学と北海道科学大学との統合へ向け、学長をはじめ、桂青会委員長や在学生、大学院生からのメッセージを紹介します。

「桂かつら」を振り返って

北海道薬科大学 学長 渡辺泰裕 教授

平成30年4月に北海道薬科大学は北海道科学大学と統合し、北海道科学大学薬学部となります。これに伴い北薬大情報誌「桂かつら」の発行を終えることになりました。

「桂かつら」は、昭和58年に初代湊顕学長のもとで組織化された広報会議(現 広報部)により刊行され、以来、第131号まで発行されました。「桂かつら」の編集に関わった期間は、おそらく私が一番長く、最終号に寄稿できることには感慨深いものがあります。「桂かつら」の特色は、記事全てを学内の教員が執筆し、



▲手前から「桂かつら」の創刊号、50号、100号

広報部がレイアウトを含めて編集してきたことにあります。記事原稿を収集後は、短い期間に文章を校正することが必要でしたし、挿入する写真も基本的に教職員が撮影しました。特にトップページの写真には苦労してきました。このように広報部が一丸となって編集してきた「桂かつら」ですので、手作りの温もり感があつたと思います。

当初、「桂かつら」は教職員、学生との情報共有の場として位置付けられ、その後、ご父母、卒業生へも送付されるようになったため、記事の内容は広がっていきました。ご父母から、「桂かつら」に掲載される年間行事予定表は大変に便利です」とのご意見をいただいたこともあり、第89号(平成16年5月号)からは、ホームページにも掲載しました。



1年 山田 麗

私が北海道薬科大学と北海道科学大学の統合に期待することは、薬学部と保健医療学部が関わる機会の増加です。学部間での交流機会を設けることや、共同の学修機会があれば、良い刺激になるのではないだろうか。これによって薬学以外の医療知識を取り入れることができ、さまざまな角度から医療について考えることができると思います。定期試験・国家試験のためだけではなく、実際に現場に出て働いたときに役に立つ知識を学ぶことが重要と考えています。統合することで学部間の距離が近くなると思うので、お互いの医療知識を共有できる環境が増えることを望んでいます。

私の今後の目標は、更に学力を上げて学年以上位を目指しつつ、部活も精力的に行うことです。そのため普段から継続して学修に取り組み、テスト前だけに蓄えられる短期間の知識ではなく、年月が経過しても記憶に残る知識としていきたいです。

2年 昆野 なつみ

私が北海道科学大学との統合において期待することは他学部との交流です。同じ大学となることで他の学生と会う機会が増え、自分の考えの幅が広がるだろうと感じました。例えば、薬学部と保健医療学部では患者に対する対応の仕方や病状の捉え方が異なる可能性があるため、コミュニケーションをとることで情報共有をしやすくなると思います。また、これからの医療は地域に関わるものが多くなるため、地域社会との



連携が強くなると思います。今まで薬学という専門的なことが中心となっていましたが、他学部と連携することで社会性が向上するだろうと感じました。

将来、看護師や理学療法士の方々と同じ職場で働く可能性もあるため、学生のころから交流を持つことは大事になると思います。サークルや協学会、大学祭などの活動を通して多くの学生と積極的に関わり視野を広げていきたいです。

4年 橋本 佳奈



北海道科学大学に統合することにあたって期待することは、今まであまり関わることのなかった他の学部との交流です。現在、日本では高齢化が進み、在宅医療も積極的に行われています。患者さんのニーズに合った医療を行っていくためには看護師、理学療法士など、北海道科学大学に設置されている学部に関わる職種との連携が欠かせません。統合することで、他の学部が身近になり、他学部の皆さんが目指す職業がどのようなものなのかを深く知ることができそうです。また、一度きりの大学生活の中で、他学部の皆さんと交流を深めることができるのもとても楽しみなことです。5年生では実務実習が始まり、6年生では国家試験も控えています。この統合を機に、チーム医療にも積極的に関わり、患者さんや他の医療従事者の方にも頼られる薬剤師を目指し、新たな気持ちで頑張りたいと思います。そのため、あと二年間の大学生活で、更に深く勉強し、さまざまなことに挑戦していきます。

5年 原田 真弓

北海道薬科大学は北海道科学大学と統合し、北海道科学大学薬学部となります。北海道薬科大学のキャンパスが北海道科学大学のある手稲に移転したのは、もう3年も前になります。その間に、オープンキャンパスや大学祭など、合

私の手元に第1号から第130号まですべてが揃っています。これに最終号の第131号を加えて、北海道薬科大学の「桂かつら」の全歴史となります。

今後、北海道科学大学薬学部の情報は「ニュースレター」へと引き継がれ、情報を伝えていきます。「ニュースレター」には薬学部の情報が加わりますので、ご期待ください。

在学生メッセージ

桂青会委員長
3年 山本 晟蓮

北海道薬科大学は北海道科学大学と統合し、平成30年4月より北海道科学大学薬学部薬学科として生まれ変わります。また、大学の統合に伴い、桂青会も平成30年3月末をもって解散することとなりました。平成30年度以降は、薬学部の学生は「北海道薬科大学桂青会」ではなく「北海道科学大学協学会」の一員として学生委員活動を行うこととなります。この統合によって、他学部との交流が強化されることを期待したいと思います。

北海道薬科大学や桂青会の名前がなくなってしまうのが残念ではありますが、北海道薬科大学としての歴史はなくなることはなく、この広報誌「桂」の中にも深く刻み込まれております。さらに、

桂青会の活動を通して得た経験や考え方は、今後の人生の糧になることでしょう。



桂青会の最後を迎える節目の年に委員長を務めることが出来たことを、非常に光栄に思っています。最後まで委員長としての責務を果たし、次の世代に襷を繋げたいと思います。

同でさまざまなイベントを行い、少しずつ交流を深めてきました。学部間の垣根を越えてさまざまな人と関わることは学生生活をより面白いものにしてくれると感じました。総合大学ならではの特権です。春になり、学年が上がると、卒業研究や実務実習だけでなく、就職活動が本格的に始まります。大学の卒業生の方は多く、大学内はもちろん、外でも先輩と関わる機会が増えます。先輩・後輩の繋がりを感ずるのは嬉しいことです。多くの先輩が卒業された大学の名称が変わってしまうのは寂しいですが、卒業生の方々にはこれからも変わらず見守っていただけたらと思います。最後に、大事な国家試験まで1年を切ったので、気を引き締めて生活していきます。



大学院2年 福村 明洋

私は動物細胞を用いて抗がん剤作用機序の研究を行っています。実験には無菌操作や遠心分離などを行うための施設や機器が必要ですが、桂岡の旧校舎では狭いスペースと使用機器の不足や移動距離の問題があり、スムーズに実験を行えないことがしばしばありました。しかしながら、北海道科学大学との統合に向けて移転した手稲キャンパスの新校舎ではこれらの問題が解決され、時間を有意義に使って実験を行うことができるようになりました。また、実験室には新しい機器が導入され、より精度の高い先進的な実験も行うようになりました。さらに、院生がデータのまとめや論文作成などを集中して行える大学院生室も設置されました。素晴らしい研究環境が整い、私も研究に邁進する日々を送っています。

